



苦工同窓会支部 関東六華会

会報 第23号

2026. 6. 30

発行責任者

篠原 和行

編集委員

大澤 哲司 福澤 光男

” 明るく楽しい同窓会活動 “ を目指して！ 「関東六華会」会長 篠原 和行（土 s43）

関東六華会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また日頃から同窓会活動に対し、温かいご支援とご協力を賜り、心から感謝いたします。

お陰様で、令和7年度の関東六華会総会は来賓の本部同窓会渡辺健治会長、苫小牧市東京事務所江原所長、苫西高関東樽前会遠藤会長、苫高専樽前会関東支部牛坂支部長、苫東高白三会東京支部林事務局長の皆様をお迎えし、約50名の方々の出席のもと盛大に開催出来たことは喜びに堪えません。

また、懇親会のアトラクションには苫工の卒業生で吉本興業に所属しているお笑い芸人「スクランブル」に出演して頂き、会場を大いに盛り上げてもらいました。

お二人に感謝するとともに今年度の懇親会にも引き続き「スクランブル」の出演を予定しております。

昨年同様、大いに盛り上がると思いますのでご期待の上、多くの会員の出席をお願いする次第です。

また、令和8年度の総会・懇親会の開催日は銀座ライオン7丁目店が東京都重要文化財に指定されたことから、令和8年6月1日から8月31日まで改修工事を行います。従って今年度に限り令和8年9月12日（土）に開催いたします。

例年とは異なる開催月になりますが是非ご出席をお願いいたします（来年度は6月の第3土曜日6月19日に開催する予定でございます）。

令和7年度に計画された行事の「総会・懇親会」「ゴルフコンペ」「散策の会」「忘年会」は全て計画通りに実施し、会員相互の親睦を深めたことをご報告いたします。

今年度の関東六華会の活動計画といたしましては、昨年と同様に「総会・懇親会」「ゴルフコンペ」「散策の会」「忘年会」を予定しておりますので多数の参加をお願いいたします。中でも「散策の会」は人気が高く、年2回行って欲しいとの要望もあり、早速1回目として4月8日（水）に「源氏ゆかりの地を訪ねて」をテーマに鎌倉市周辺の散策を実施いたしました。

関東六華会の現状は、昭和47年の卒業者を境に関東への就職者が激減し若年層の新規入会者が皆無の状態と相まって「少若高齢化」が進み、毎年20名前後の会員減少が続いています。

本会を末永く維持継続していくためにも知り合いの同級生や同窓生の紹介、並びに年会費の納入を会員皆



様方に切実にお願いする次第です。会費納入者の促進活動として「関東六華会のホームページ」の充実を図り、閲覧者数（令和8年3月末時点の閲覧者数は8,595人）を増やしたいと思えます。

また活動費の削減対策として、今年度の会報送付時に「今後も会報送付を希望するか否か」のアンケートを取ります。

その結果により会報の印刷数と送付数量の見直しを行い、印刷費用や高騰する郵便料金の削減を図っていきたく思っております。

次に、我が母校は大正12年（1923年）3月5日に創立され、令和5年（2023年）に100周年を迎えました。苫工同窓会（本部）は大正15年（1926年）3月に発足し、今年令和8年（2026年）3月に同窓会設立100周年を迎える事ができました。同窓会支部関東六華会も同窓会本部の100周年の諸活動に協力して行く所存です。

最後になりますが、今後とも皆様に愛される「関東六華会」を目指して、本会のスローガンでもある「母校の誇りと同窓生の絆」を信条とし「明るく楽しく、人が集まり、助け合いのできる同窓会」を目指して幹事一同一丸となって活動を推進してまいりますので、今後ともご支援とご協力を承ります様、宜しく願い申し上げます。



ふるさと苫小牧との架け橋として 苫小牧市東京事務所長 加賀屋 隆

関東六華会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本年4月1日付で苫小牧市東京事務所に着任いたしました加賀谷と申します。

この度、寄稿の機会をいただき心より感謝申し上げます。

東京での勤務は10年ぶり2度目となります。前回の赴任時は皆様から温かいご支援をいただき、大変お世話になりました。

再び東京の地で皆様とお会いできることを心より嬉しく感じております。



この場をお借りして、苫小牧の今、そしてこれからについてご紹介したいと思います。

苫小牧市は、昭和41年(1966年)に全国で初めてスポーツ都市宣言を行い、今年で60周年という節目を迎えました。スポーツは、市民の健康増進や青少年の健全育成のみならず、地域への愛着や一体感を醸成するとともに、観光との融合により、交流人口の拡大をもたらす大きな力を持っています。苫小牧市では、この節目の年にスポーツ分野の取組を強化し、スポーツ観光都市としてのブランドを全国に力強く発信していきたいと考えております。

苫小牧といえば「スケートのまち」ですが、「氷都・苫小牧」を象徴するプロアイスホッケーチーム「レッドイーグルス北海道」の活躍が光ります。昨シーズンは、全日本選手権とアジアリーグを制覇し、見事に二冠を達成しました。彼らの氷上を疾走する躍動感と、最後まで諦めない戦いぶりは、多くの市民に勇気と感動を与えてくれました。また、北海道日本ハムファイターズファーム施設の誘致も市民の大きな関心を集めております。

この原稿を書いている時点(4月末)では、胆振・日高地域が広域的に連携した誘致活動を展開しております。本年6月頃には移転先が決まるとも言われており、もしかすると、この原稿が皆様のお手元に届く頃には、吉報が届いているかもしれません。誘致が実現すれば、苫小牧の新たなランドマークとして、次世代へ夢をつなぐ大きな一歩となるでしょう。

さらに今年の夏、サッカーJ1の名古屋グランパスが苫小牧でリーグ開幕前の夏季トレーニングキャンプを実施します。日本最高峰のサッカーリーグのチームが苫小牧を選んだことは、スポーツ都市としての評価を示すことになり、市民の皆様にとっては、国内最高レベルのプレーを間近で見学できる貴重な機会となるでしょう。

スポーツ以外の話題についてもご紹介いたします。本年3月、新たな文化芸術の拠点「市民文化ホールART CUBES」がオープンしました。

街の中心部、旧市民会館の隣に誕生したこの施設は、現代的なデザインと高い機能性を兼ね備え、市民の皆様の新たな拠点として賑わいを見せています。

苫小牧にお越しの際はぜひ足を運んでいただきたいと思います。

行政面では、就任2年目の金沢市長のもと、「挑戦」をテーマに全庁一丸となってまちづくりを推進しております。苫小牧はスポーツの他、樽前山をはじめとした豊かな自然環境、港湾、ものづくり産業の集積など、多種多様な特色を持っています。

苫小牧市東京事務所は、こうした魅力を広く発信し、首都圏と苫小牧の架け橋となる役割を担っております。私自身、10年ぶりの再赴任となりますが、微力ながら尽力してまいります所存でございます。

最後に、苫小牧にゆかりのある方々が集う「東京とまこまい会」をご紹介いたします。篠原会長には副会長を務めていただいております。この場をお借りしまして感謝申し上げます。昨年は約170名の皆様にご参加いただき、ホッキ貝をはじめとする郷土の味に舌鼓を打ちながら、懇親を深めていただきました。

今年は10月23日(金)に開催を予定しておりますので、皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

懐かしい出会いと共に、楽しいひとときをお過ごしいただければ幸いに存じます。



結びになりますが、関東六華会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。

令和7年度 苫工同窓会支部 関東六華会 総会・懇親会 6月21日 (銀座ライオン7丁目店6階銀座クラシックホール)

・・・・・・・・・・・・・・・・ 関東六華会 役員による活動報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・

司会



幹事:松崎(土 s43)

会長挨拶



副会長:野本(機 s43)

活動報告



会長(議長):篠原(土 s43)

会計監査報告



幹事長:小野寺(電 s45)



監査役:伊藤捷(電 s38)

来賓のご挨拶・皆様



林 苦東高白三会
東京支部 事務局長



牛坂 苦高専 樽前会
関東支部 支部長



渡辺本体会長(機 s44)



江原 苦小牧市
東京事務所所長



遠藤 苦西高
関東樽前会 会長



総会資料を見入る 会員の皆様 乾杯の音頭 故 早坂(土 s35)

歓談する皆様



昭和41年卒業以前
・来賓

上段左から 大日向(電 s35) 蒲原(電 s38) 駒米(電 s36) 及川(電 s36) 村田(電 s40) 南部(建 s41) 馬淵(電 s39) 神馬(電 s37)
中段左から 吉田(電 s39) 阿部(機 s36) 石堂(土 s39) 武田(電 s35) 故 早坂(土 s35) 山崎(工化 s35) 櫻井(通信 s38) 岡山(機 s35)
伊藤(電 s38:監査役) 三橋(工化 s41:会計)
下段左から 坂本(電 s31) 林 苦東高白三会東京支部 事務局長 江原 苦小牧市東京事務所所長 篠原会長(土 s43) 渡辺本体会長(機 s44)
遠藤 苦西高 関東樽前会 会長 牛坂 苦高専 樽前会関東支部 支部長

昭和42年卒業以後
・来賓



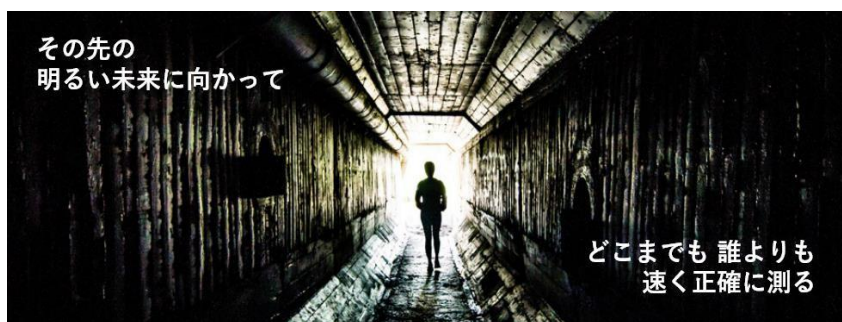
上段左から 菅原（機 s45）三浦（機 s60：監査役）福澤（機 s45：副幹事長）加藤（土 h26：吉本芸人 だいき）平口（電子機械 h26：吉本芸人 としき）山本（電 s43）小野寺（電 s45：幹事長）松平（機 s43）松山（電子 s56）福田（建 s44）佐々木（機 s45：幹事）
中段左から 首藤（電 s43）大澤（電 s43：幹事）鈴木（機 s43）松崎（土 s43：幹事）橋本 雅（電子 s43：幹事）野本（機 s43：副会長）
下段左から 田中（建 s43）中市（建 h03）千葉（建 s44：幹事）遠藤 苫西高 関東榊前会 会長
林（土 s42）林 苫東高白三会東京支部 事務局長 江原 苫小牧市東京事務所所長 篠原会長（土 s43）渡辺本部長（機 s44）
二ツ屋（機 s42）藤井（電子 s43）

散策「国分寺・府中の歴史探訪」に参加して 篠原和行（土 s43 年卒）

今回も櫻井前幹事（通信 s38 年卒）に甘えて企画していただいた、「国分寺・府中の歴史探訪」を 11 月 15 日（土）に JR 中央線国分寺駅に 14 名の参加者が集合し、天候にも恵まれ快晴で温暖な中、

1. 武蔵野段丘の南緑の「国分寺崖線」と呼ぶ段丘崖とその下端部付近の礫層から浸水する湧き水を利用し材木林の風致を生かして作られた近代別荘庭園で

ある「殿谷戸庭園」散策からスタートしました。
実は、51 年前の昭和 49 年に本社転勤になった時、会社の「国分寺寮」（跡地は現在早稲田実業高校になっています）に入寮し、4 年間生活していたのですが近くにこのような素晴らしい庭園があったことさえ知らず恥ずかしい限りでした。



その先の
明るい未来に向かって

どこまでも 誰よりも
速く正確に測る

「はかる」をキーワードに事業を展開

建設計測技術・機器の開発

地図に関連する情報システムの開発

測量・計量・設計製図用品の販売

NETrise

有限会社ネットライズ 取締役相談役 二ツ屋 清一（機械 s42 年卒）

<http://netrise.co.jp> 〒103-0004 東京都中央区東日本橋 2-2-2 池上ビル 4F Tel : 03-5856-3008 Fax : 03-3865-1282

2.「東山道武蔵路」へ、東山路武蔵路は上野国(現群馬県)から南下して武蔵国府に至る往還路(東山道の支路)を発掘調査の結果、幅12mの道路跡が台地上から谷部にかけて490mの長さで確認されました。現在その道路跡の300mを歩道形式で現在の国分寺市役所前に保存されていました。

3.「武蔵国国分寺跡」で「国分寺」の建立から地震や分倍河原の戦いで焼失しましたが、昭和31年に科学的な発掘調査が行われ建物跡などから全国に建てられた国分寺の中でも、とても大きかったことが分かったことなど櫻井さんから説明を受けました。



後列(左から):大澤(電 s43)、熊倉(電 s43)、石堂(土 s39)、山崎(工 s35)、菅原(機 s45)、佐々木(機 s45)、櫻井(通信 s38)、小野寺(電 s45)、田中(建 s43) 前列:岡山(機 s35)、野本(機 s43)、篠原(土 s43)、三橋(工 s41)、吉田(電 s39)

4.「府中市郷土の森博物館」に移動し館内の展示物見学と昼食でしたが、数人の方がビールやワインを飲まれていたのですが、菅原さん(機 s45 年卒)と私は運転手でしたので大好きなお酒を飲む訳にもいかず残念でした。

5.「武蔵府中熊野神社古墳展示館」へは、地元府中市に在住している岡山さん(機 s35 年卒)のヒューマンナビでカーナビを使用することなく移動しました。

更に驚いたことに、この展示館の中には岡山さん

が散歩中に撮影した、展示館建設以前から年度別に風景が分かる写真が展示されていたのです。

館内展示物見学後に古墳も見学しました。日本国内でも3例しかない上円下方墳(じょうえんかほうふん)という貴重なものと確認されました。

他の2例(奈良県、静岡県)が7世紀後半～8世紀前半とされるのに対し、武蔵府中熊野神社古墳は7世紀前半と判明し、上円下方墳の国内最大で最古級の古墳と判りました。

被葬者は不明ですが、上円下方墳であることや全面が石で葺かれていること。



さらに切石積み
みの三室構造

の横穴式石室であることなどの特徴から、武蔵国内を代表する有力者の墓であると推察されています。

6.大國魂神社に移動すると「七五三」で親子連れが多く露天も多く出ていて賑やかでした。

宝物殿では例大祭で使用される日本最大の「御先拂大太鼓」を見学、説明文には「例大祭当日は八基の大神輿と六張りの大太鼓が御旅所に渡御する。

この太鼓はこれら八基の神輿の先頭を御先拂役太鼓として進むもので、くりぬき胴太鼓としては、我が国最大のものである。

直径 2.5m、重さ 27.5 トン、本体の材質はブビンガー(アフリカ・カメルーン産)、皮は和牛雄1頭皮使用と記されていました。

7.大國魂神社を後にし、JR 府中本町駅横の「武蔵国府跡」の管理事務所で貸して頂いた、イヤホン付の武蔵国府スコープを装着して、指定された1～5のポイ



SANKO

管・消防施設・土木・建築工事

有限会社 三興エンジニアリング

代表取締役 鈴木 正夫 (機械s43 年卒)

〒373-0035 群馬県太田市藤久良町 48-49

TEL:0276-31-3499 E-mail:sankoeng035@ad.wakwak.com

ントに行くと、「模型の解説と上空から国府域全体を再現」、「古代の蹴鞠(けまり)」、「主殿内部で万葉集を詠む宴」、「徳川家康が多摩川周辺で行った鷹狩り」等が観られとてもリアルな感じがしました。

最後に、JR 国分寺駅周辺の居酒屋で懇親会を行い楽しい1日が終了しました。

「六華会 ゴルフコンペ」開催しました

2019年の初開催から数えて第5回目(2020年、2021年のコロナ過での有志によるコンペは除く)となる六華会ゴルフコンペを10月20日、東京湾 CC において3組・12名の参加者で開催しました。



左より(敬称略) 後列:篠原、福澤、菅原、小野寺、南部、鈴木、伊藤 前列:三橋、大澤、熊倉、ニッ屋、橋本

少々の肌寒さを感じながら篠原会長の始球式で長浦コースよりスタートしました。

今回は伊藤捷憲さん(電気 s38 年卒)のクラスメートであった鈴木克己さんが初めて参加されました。久々のゴルフとのことでしたが、級友の伊藤さんと一緒に回り終始楽しくラウンドして



おりました。



午前中は時々小雨が降り、前夜の雨のせいもあっての遅いグリーンに苦労しながらのコンペとなりましたが、結果はハンデも味方につけた橋本雅人さん(電子 s43 年卒)が、5 回目の本コンペで3回目の優勝を果たしました。2位には実力者の菅原

雅和さん(機械 s45 年卒)、3位には最年長の伊藤捷憲さんが入りました。

篠原会長からラッキーセブン賞の獲得者は会報23号に本コンペの投稿記事を執筆してほしいとの提案があり、見事、三橋頭さんが獲得しました。



前回の優勝者、南部忠弘さん(建築 s41 年卒)はハンデに恵まれずに BB 賞となりました。



今回はいつも前泊に利用していた南総ヒルズ CC のロッジが閉館したため、前泊組の9名はJR 内房線・長浦駅近くの旅館に投宿、近くの居酒屋で懇親を深めました。

次回以降も多くの皆さんの参加をお待ちしております、ご協力ありがとうございました。(記:広報担当)

令和7年「関東六華会 忘年会」開催しました

12月6日、関東六華会の忘年会が銀座ライオン7丁目店2階にて20名の参加者を得て賑やかに開催されました。

今回参加の最高高齢者は昭和31年卒者、最高若年者は平成3年卒者、参加者20名の平均年齢は77歳を上回りましたが、皆さん元気はつらつ久々に会った喜びの笑顔が印象的でした。



参加者全員で記念写真に納まり、松崎さん(土木 s43 年卒)、千葉さん(建築 s44 年卒)の進行のもと、篠原会長から1年間の活動の協力へのお礼の挨拶に続き、元会長の坂本さん(電気 s31 年卒)の乾杯の音頭で祝宴



ちゃんこ
盛太
SEITA

町田市南成瀬 5-1-7 中島ビル
Tel.042-785-4957
営業: 17:00~ 定休: 木

が始まりました。高齢者向けに気配りした料理とお酒を楽しみながら参加者全員から近況報告があり 1 年間を振り返りました。

楽しい時間を短く感じながらも、阿部顧問の中締めの際、篠原会長の音頭による校歌斉唱を行ない、来年の再会を誓いながらのお開きとなりました。

(記:広報担当)

同期会便り

機械B s 43 年卒ミステリアルなクラス会

令和7年2月中旬に突然舞い込んだクラス会開催通知、『6月27日、場所:熱海ニューフジヤホテル、6時半の夕食バイキングを予約の事』と、これだけの案内でした。平成 24 年以来、13 年振りのクラス会、事前の情報も無い中、まずはホテルの予約を済ませました。しかしバイキングの予約は「当日チェックイン時に申し込みを」と言われました。

そして数日後にライングループの参加案内が来ておぼろげながら概要が見えて来ました。

要は幹事役の負担軽減の為、「日程と場所」だけを決めて参加を希望する者は各々ホテル予約や交通手段を確保する、そして宴会場所はバイキング会場と云う設定の様でした。

4ヶ月も先の事でしたが久しぶりに級友に会える期待感でいっぱいでした。

クラス会の 1 週前の 21 日は関東六華会の総会・懇親会でした。43 機械Bからは私を含めて 3 名出席、その場で情報交換をしましたが参加者の全容は見えませ

んでした。

それでも 27 日が近づくとラインには頻繁に着信がありました。「前泊しますので今から新千歳発です」「静岡空港から熱海へ入ります」「熱海着 13:53 の東海道線最後尾に乗ります」等様々でした。

この頃には北海道と関東からの参加者が見えて来ましたが、ラインに参加していない方もいるはずなので全容は未だ掴めませんでした。

当日の27日、私は戸塚駅から東海道線の最後尾へ乗車。そして車内をグルーっと見回した瞬間、こちらをじーっと見つめる人物発見、マスクを掛けていましたが思い切って接近！して見ました。

それは羽田空港から横浜駅経由の佐藤君でした。列車が発車するや否や彼が早速バックから取り出したのは缶ビール、まずは再会の乾杯！

対面シートだったのでお互いの近況を交換中に程なく辻堂駅に。ここでは永坂君が合流するはず、彼は六華会の総会で私とは何度も顔を会わせていたので容易に合流。佐藤君がまたバックからビールを取り出して2回目の乾杯！

引き続き近況や今回の参加者の話をしているうちに熱海駅に到着。

ここには群馬からの鈴木君と新千歳から静岡経由の沢口君が情報通り改札口で待機していて無事合流、もう一人、札幌から福地君が来るとの事で、駅前の居酒屋で3回目の乾杯をして少し酔いが回って来た頃に福地君が到着し 4 回目の乾杯！

この場に及んでやっと今回は総勢6名の参加と云う事が分かりました。

ホテル迎えのバスでニューフジヤへ、バイキングも全員同じ時間帯で予約が取れていったん解散。

温泉につかり浴衣に着替えてからバイキング会場に集合、そして各自乾杯の飲み物を取りに行きテーブルに戻ると我々の席に見知らぬご婦人が一人？



・関東六華会会員登録者数(令和 8 年3月末)

	537 名
前年度からの増減	98 名減
増減の内訳	
物故者	5 名
退会者	9 名
住所不明者	10 名
登録抹消者	76 名
新規加入者	2 名

日々異なる20種類以上のおばんざい大皿料理をご用意！大人の隠れ家！

ふるさと味の 蛸 (ほたる)

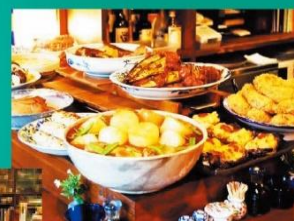
〒103-0014

東京都中央区日本橋蠣殻町 2-5-4

パークハイツ日本橋蠣殻町 2 F

地鉄半蔵門線水天宮前 5 番出口から1分

TEL: 03-5652-5988



定休日: 日曜日/連休になる祭日

営業時間: 昼 11:00~14:00 夜 17:00~23:30

隣のテーブルには女性の団体がいたので「えっ間違っ
て我々のテーブルに？」と思いきやよく見ると福地君
と会話中。なんと彼の奥様でした。我々はこの席で初め
て奥様の参加を知りました。

無粋な男衆の中に花を咲かせてくれた瞬間でした。

ここで 5 回目になるけどやっと正規の乾杯！

お互いの近況や他の同級生の消息や学生時代の思
い出、先生の事、部活や寮生活の事と話が弾みバイキ
ングの制限時間が終了した後は部屋へ戻って飲みなお
し。翌朝は自由解散と決めていましたが、名残惜しいの
か結局全員

がロビーに顔を揃えました。折角なので集合
写真を撮り、その後はホテル名物家康風呂
へ行く人、初島観光へ行く人、熱
海駅へ、と思い思いの方向へ。



左より(敬称略): 福地、鈴木、沢口、佐藤、野
本、永坂

今回のクラス会は初めての「内地」開催でしたが、互
いの健康と再会を期して帰路につきました。

記: 野本雅起

同期会便り

電気s 43 年卒クラス会 in 北海道

去る令和 7 年 9 月13日(土)「札幌北広島クラッセホ
テル」で電気科43年卒のクラス会を開催しました。

当日は、日ハム球団の
「エスコンフィールド北
海道」でパリーグ首
位争い中の「日ハム-ロ
ッテ戦」が行われてお
り、関東六華会の会員
である大沢君(幹事)・
熊倉君・仙北君・首藤
の4名と地元北海道6
名で計10名の有志が日ハム応援観戦を行い、開閉式
屋根を持つ天然芝ドーム球場の大スクリーン映像&音
楽、緊迫するスリリングな野球をビール片手に大変盛り
上がりました(当日は日ハムが逆転勝ち)。



観戦チケットでは本部副会長である内田君に特別の
計らいを頂き感謝申し上げたい。

今回は「幸喜幸齢者クラス会(幹事である樫原君ネ
ーミング)」と銘打って行われ、地元北海道12名・関東
4名の16名が「札幌北広島クラッセホテル」に集まった。
ホテル到着後、温泉風呂・サウナで疲れを癒した後の、

どを癒す乾杯
で会がはじま
った。参加者
全員の近況報
告や昔話に耳
を傾けなが
ら、美味しい
地元料理とお
酒を堪能しま
した。

我がクラスの
森元昇治君が、春の叙勲
で「瑞宝単光
賞」を頂き、皇
居の授賞式に
参列する慶事がありました。

会からお祝い品(卓上時計)を贈呈
し、苦労話や皇居の式典の様子等で大
変盛り上がり、森元君から元気を頂い
た。来年(令和 8 年 9 月)も「電気科43
年卒クラス会」の開催を決め、元気な姿
で再会する事を誓って、大竹君の指
揮・エールで「校歌斉唱」を歌い、会
はお開きとなった。

記: 首藤真史



左から 上段: 塩見、柄沢、森元、樫原、
首藤、新井山、宇良田、大竹、後藤、大
澤(関東六華会幹事)、竹本 下段(座
位): 梅村、熊倉、内田(本部副会長)石
原、仙北、千引(敬称略)



森元昇治君

苦工同窓会支部「関東六華会」

令和 8 年 度

総会・懇親会 開催のご案内

開催日時 2026 年 9 月 12 日(土)

午前 11 時 30 分～

(受付 11:00～)

開催会場 銀座ライオン七丁目店6階

銀座クラシックホール

“母校を想い、さらなる絆を”

<https://tomako.org>

ホームページの検索

PC

関東六華会

検索

スマホ



←カメラを向け、出
た URL をタップ！

編集後記: 登録会員数も減少の一途をたどり厳しい
環境下にあります。苦工愛で「会員が集まりや
すい同窓会」を目指し、前に進んでいきますので、
引き続きよろしくお願いいたします。

“活躍する苦工同窓生”

雨野勝彦さん(電気s34年卒)

令和7年10月23日(木)、川越西文化会館(東武東上線霞ヶ関駅北口徒歩12分)で開催の、雨野 勝彦さん(電気s34年卒)が会長の「満月写真クラブ」第63回「満月写真クラブ」写真展に、坂本 敏弘さん(電気s31年卒)、山崎 真穂さん(工化s35年卒)、筆者の3名で訪問しましたので紹介します。



全国各地の四季折々の魅力的な風景写真、昔から続く伝統的な日本の「祭り」の臨場感にあふれた迫力のある写真、シャッタータイミングをずらしたのでしょうか、緊張感が緩んだタイミングでの自然な笑顔の表情豊かな人物写真、野鳥の獲物を確保した時の絶妙なタイミングの写真等、何れも素晴らしい3



6点の作品が出展されていました。雨野さんの力作4作品をご紹介します。写真各所の淡い青色部分は額縁のガラスに明かりが反射したものです。

素人目線で感想を一言。

1. 水鳥郷公園の朝(川越市)

雨野さんのお話では、中央やや下湖面に写っている盃のような光は、カメラのレンズに朝日が反射したもので、肉眼では見られないとても珍しい写真で、殆どこのような偶然を目にすることは無いものと思います。

水鳥の郷公園(みずどりのさとこうえん)は、大規模住宅地開発に伴い設置された雨水調節池の周囲を散策路として整備した公園で、池の内部には出島があり、多くの水鳥の休息、営巣地となっています。



2. 飛騨の里(岐阜県高山市)

手前に人物とかがり火が写っていることにより、遠くにある雪を頂いた合掌造りの古民家との間に奥行き感が生まれています。

また、ライトアップに照らされ淡い青色に染まった夜の闇に浮かぶ合掌作りの古民家、その奥の暗い背景と相まって、飛騨の里ならではの特別な幻想的で美しい光景が広がっています。



3. 小畔川朝(川越市)

両岸が暗く川筋がクッキリ手前から奥へと次第に細くなり、遠近感が良く表現されており、一番奥には両端の樹木が川筋を招くような空間を作り、朝日が昇って明るくなっていく様子に時間差が感じられ、とても魅力的な写真になっていると思います。

小畔川(こあぜがわ)流域には、川や公園での遊び、歴史や自然散策、に適した場所が随所にあります。



4. 浅間山(長野県)

浅間山は、晴れた日の雄大な景色はもちろんのこと、曇りの日や薄暗い中でも、雪をまとった稜線が際立って見える光景もまた格別な美しさがありますね。

また、浅間山の冠雪と手前の麓の暗い部分のコントラストが季節の移ろいを感じさせ、絶景を生み出しています。



午後1時過ぎに会場を後にし、駅前のレストランで遅い昼食をとり、昔話に花を咲かせ

楽しい一時を過ごし帰路につきました。

雨野さん、お忙しいにも関わらずお世話いただきありがとうございました。来年の春にまたお邪魔いたします。

令和7年11月10日 記: 吉田 秀夫(電気s39年卒)

“活躍する苦工同窓生”

画伯 蒲原勝美さん(電 s38 年卒)

令和8年2月12日(木)国立新美術館で開催の、蒲原 勝美さん(電気 s38 年卒)が前会長を務めていた、「等迦会」創立 100 周年を記念する第58回等迦展に、山崎 眞稔さん(工化 s35 年卒)、



駒米 隆さん(電気 s36年卒)、吉田 秀夫さん(電気 s39年卒)、会場で一緒になった、篠原 和行さん(土木 s43年卒)、小野寺 博美さん(電気 s45年卒)の5名で訪問しました。

今回出展された蒲原画伯の作品は、得意のジャンルである海をモチーフに、今年1月に描かれた80号の「犬吠埼灯台」でした。



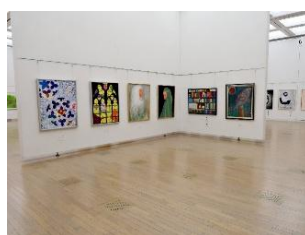
手前の激しく波立大きい岩場の中から、真っ青な海を隔て遠くに展望できる、海面から高さのある台地に立ち、薄っすらと雲を頂き青空に映える「犬吠埼灯台」のコントラストに魅了されました。

犬吠埼灯台を形容する「この素晴らしい情景は、晴れた日には特に青い空、白い灯台、紺碧の海と荒波、そし

て薄雲が調和し、ドラマチックな風景を作り出す」と言われている、ワンカットそのものではないでしょうか。

等迦会は、1926年(大正15年)2月に創立された歴史ある全国的な美術団体で、今年、めでたく創立100周年という記念すべき開催となり、特別企画として文部科学大臣賞をはじめ、東京都知事賞、毎日新聞社賞などの著名な賞が授与される大規模な展覧会でした。

等迦展は油彩、水彩、日本画、版画、彫刻、工芸な



ど多岐にわたるジャンルの作品が展示され、国内外で広く知られており、今回は、西日本からは山口県、東海・近畿、東日本からは関東圏を中心に、遠くでは秋田県から、会員、準会員、会友、一般公募を含め172点の何れも見ごたえのある力作が出展され、多くの方が来場されていました。

令和8年2月21日 記:参加者代表